

海外レポート

デンマーク王国
Kingdom of Denmarkデンマークにおける養豚情勢と
アニマルウェルフェアへの対応

デンマークは1母豚当たりの離乳頭数が世界1位と高い繁殖成績を有する国で、アニマルウェルフェア(AW)への取り組みを積極的に実施しています。日本においてもW OAHコードに基づく飼養管理指針が2023年に策定され、今後もAWへの関心は高まると考えられます。そこで、デンマークでの養豚情勢、AWへの対応状況や課題など、現地の農場などを訪問して情報収集を行いましたので、紹介します。

(※国際獣疫事務局により策定された国際貿易、動物衛生措置及びアニマルウェルフェアに関する国際基準)

① デンマークの養豚情勢

デンマークは日本と比較して人口や国土面積は少ないですが、母豚の飼養頭数や1戸当たりの平均母豚飼養頭数(頭/戸)は日本よりも多いです(表1)。

デンマークは国内で生産された豚の4割をドイツ、ポーランドなどの周辺国に生体30kgで輸出しています。残りは、90%を精肉・加工品として約100カ国に輸出し、10%

表1 デンマークの養豚情勢

	デンマーク	日本
人口(万人) ^(注)	590	12,500
国土(km ²)	43,098	377,975
母豚飼養頭数(万頭) ^(注)	97	79
雌豚がいる農家戸数(戸) ^(注)	1,298	2,750
平均母豚飼養頭数(頭/戸)	750	290

(注)2022年時点のデータ

をデンマーク国内で消費しています(図)。

また、17年から22年の5年間でデンマークの1母豚当たりの年間離乳頭数は平均33・6頭から34・1頭に増加しており、農家戸数は日本と同様に減少していますが、母豚のパフォーマンスの改善などにより、生産・飼養頭数は増加しています。

② AWの取り組み

デンマークでは、妊娠舎だけでなく、交配舎、分娩舎でのフリーストール化が実施されています。そこで、各豚舎におけるAWの取り組みをご紹介します。

ア. 妊娠舎(写真1)

デンマークを含むEUでは交配4週間後から妊娠豚の群飼育が義務付けられていま



写真1 妊娠舎の様子

③ AWの課題

デンマークでのAWの取り組みをお伝えしましたが、課題も残っています。母豚のフリーストール化については、AW対応設備の新設だけでは効果が得られず、従業員のトレーニング、豚舎設備や設計、品種などの複数の条件が揃うことで初めて実現が可能です。特に、母豚の性格(母性本能に優れる)が重要で、母豚の選抜ができていない農場で設備を導入したところ、子豚の事故率や圧死が増加したとのことでした。

また、断尾や去勢の未実施を政府当局は推進するものの、生産現場での課題は依然として残っており、訪問した農場についても実施していません。日本においてもAWを推進する上で、生産現場での課題や消費者の動向を注視し、進める必要があると考えます。

表2 フリーストール方式

フリーストール方式	概要
① Freedom Farrowing	完全に母豚がフリーで動くことが可能
② Sow Welfare and Piglet protection	分娩2～3日間は母豚を柵で囲う。以降、柵を取り外し、自由に動くことが可能

ウ. 交配舎(写真3)

交配舎は、離乳後から妊娠鑑定までの4



写真2 分娩舎の様子(左:柵あり、右:フリーストール化)



エ. 離乳子豚舎(写真4)

子豚の歩行時の安全性を考慮し、床は全面スノコではなく、部分スノコが採用されているほか、体重20kg以上の子豚、繁殖豚、肥



写真3 交配舎での群飼育の様子



写真4 離乳子豚舎での様子

図 デンマークにおける豚の生体および加工品の輸出状況

